



社報
かめがいけ
No.29
令和2年7月

亀八招福稲荷神社向拝の彫刻「松に鷹」



修理固成

是のただよえる国を
修理り固め成せ



亀八招福稲荷神社右脇障子の彫刻「牡丹に唐獅子」

いちょう ー古事記ー

国土の修理固成は永遠の課題である。修理固成とは何か。それは、小にしては人心の開発であり、大にしては社会・国家・世界の立派な建設である。

古事記には「ここに天神諸の命もちて、伊邪那岐の命、伊邪那美の命の二柱の神に、詔りたまいて、『此の漂える国を修理り固め成せ』と、天の沼矛を賜いて言依さしたまいき」とある。この言葉は、我が祖神が、私共に示された最初のお言葉である。神道を奉ずる者としては、このお言葉通りに生き、このお言葉を立派に実現することが、最高の使命でなければならぬ。

ー古事記は元明天皇の和銅5(712)年正月に太安蔭の撰進した我が国最古の神典である。岡田米夫『神道百言』より



北相模総守護社

亀ヶ池・八幡宮

<http://www.kamegaike.jp/>

令和2年7月

社報
龜ヶ池

第29号(4)

亀ヶ池八幡宮オリジナルご朱印・お守りのご案内

ご朱印

月参り限定ご朱印…初穂料八百円
天然の檜で奉製した特別なご朱印です。

月参り限定ご朱印…初穂料八百円
天然の檜で奉製した特別なご朱印です。

通常のご朱印…初穂料五百円



お守り

祈るー疫病消除・退散「アマビエ守」

新型コロナウイルスの感染拡大は、国民生活に大きな影響を与え、今なお第二波が懸念されるなど、予断を許さない状況が続いています。不安な日々が続く中ですが、当八幡宮では、感染症の早期の終息と平穏な生活が一日も早く迎えられますように疫病消除・退散の旨を大神様に日々祈念しております。そこで氏子崇敬者皆様の「ご健勝を切に願ひ、この度「アマビエ守」を奉製いたしました。



正式参拝報告

令和元年9月～
令和2年5月末日

正式参拝とは、広くは昇殿参拝を意味し、拝殿の中に上がって玉串を奉奠しお参りすることです。通常の一般祈祷とは違い、個人や団体としてそれぞれ参拝する旨を神様にお伝えする昇殿参拝のことです。令和元年9月から令和2年5月末日まで当八幡宮に正式参拝をされた各種団体等をご紹介します。



ご案内

令和二年例大祭について

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、七月一日現在、令和二年例大祭の斎行に関しては状況に鑑みながら検討しております。決定次第、当八幡宮ウェブサイトにてお知らせいたします。

七五三祝児無事成長祈願祭

七五三祝は、古くは平安時代より公家の間で行われ、江戸時代に入り庶民に広まったものです。当八幡宮では、十月初旬頃より十一月末までお子様の健やかな成長を願って七五三祈願祭を斎行いたします。なお、すこやかバック(貸衣装・美容・着付・写真)の展示予約会を行います。ご祈祷同様ご希望の方は当八幡宮社務所へお問い合わせ下さい。

ご祈祷・すこやかバックの予約受付

…七月より

●ご祈祷時期…十月より十一月末

●すこやかバック試着予約会日程

8月29日、30日、

9月5日、6日、12日、13日、21日、22日、

10月3日、4日、10日、11日、17日、18日

令和三年正月祈願祭受付

「二年の計は元旦にあり」人は皆新年を迎え、希望や夢をふくらませ、神社に初詣されています。

当八幡宮では、無料大駐車場を完備し、初詣の皆様をお迎えしています。

家内安全・厄除け・商売繁盛・交通安全等のご祈祷予約を十一月より受け付けいたしますので、当八幡宮社務所へご連絡下さい。

※新型コロナウイルス感染症予防に伴い、行事日程・内容は変更になる場合があります。詳細は当八幡宮ウェブサイトでご確認下さい。

〔発行・お申し込み・お問い合わせ〕 亀ヶ池八幡宮社務所
〒252-0243 神奈川県相模原市中央区上溝 1678 TEL.042-751-1138 FAX.042-757-3811
E-mail:info@kamegaike.jp URL <http://www.kamegaike.jp/>

亀ヶ池・八幡宮 神社本廳総長 田中恒清氏
〔表紙社名〕 神社本庁 総長 石清水八幡宮 宮司 田中恒清氏



母の分 も一つくぐる 茅の輪かな ～小林一茶～

梅雨の真っ只中の6月28日、恒例行事の夏越大祓式「茅の輪くぐり神事」が行われました。例年、多数の方のご参列のもと、大祓詞にて罪穢れを落とし、そして行列となって茅の輪をくぐって疫病除、健康を祈願している神事ですが、本年は新型コロナウイルスの影響を受けて、三密を避ける為、神職のみにて執り行われました。

事前に郵送などでお申し込みの上、お預かりしていた氏子崇敬者皆様の人形を唐櫃に納め担いで茅の輪をくぐり、本殿へ進み、大祓詞奏上の後、解縄裂布の儀を行い今後半年間の除災を祈念申し上げ、無事に祭儀は終了しました。

梅香る二月二十四日、亀八招福稲荷神社
社大前にて、氏子崇敬者ご参列のもと初
午祭が執り行われました。
お稲荷様の総本宮である京都の伏見稲
荷大社に神様がお鎮まりになった二月の
初午の日を縁日として、毎年行われてい
る行事です。今年は二の午の日に行いま
したが地元上溝の氏子はもとより埼玉県
加須市等遠方より崇敬者の方もおいでに
なり、祭典は滞りなく執り納められまし
た。

令和
三年
初午祭齋行す
亀八招福稲荷神社

当日参列された皆様は、商売繁盛や家
内安全を祈願されていました。



亀八招福稲荷神社前にて豊栄の舞奉納

18 御嶽神社
(南区磯部九五二)
当神社が鎮座する下磯部地区は、新磯地区
の四自治会の一つで千五百世帯程の人が住ん
でいます。また相模川に面し田畑もあり自然

昭和十四年四月三十日、鳥居を建立したが、
昭和五十三年十二月に破損により再建。昭和
五十四年七月、社殿の老朽に伴い新改築を計
画し、氏子の奉納により昭和五十五年四月二
十日に新しい社殿が完成した。
【年中行事】一月：元旦式 大山代参 四月：例
大祭 六月：春の神社清掃 九月：秋の神社清掃
【地域の特色】新磯地区は、緑の多い自然に恵
まれた地域で相模の大風をはじめ、相模川の
芝桜、史跡勝坂遺跡公園、帆掛け舟、旧中村家
住宅などの豊かな自然と歴史や文化が調和し
た活力ある地域です。また、三月の最終日曜
日には、新磯さくらまつりを開催しています。
(総代長 荒井哲之)

御創建は不
詳であるが、
延文元年(一
三五六)以前
より下磯部東
地区の村の鎮
守として、御
神徳を追念す
るもの多く、江戸時代は別名山王大神権現と称
した。文久元年(一八六二)八月三十一日に社
殿を再建し、その後慶応元年(一八六五)九月、
社殿の再建、更に職等も新しく調えた。境内
地には樹木も多く、延長約二十メートルの石
段は、暮末に氏子の人々が馬にて運んだ石で
築いたものである。



17 日枝神社
(南区磯部二二四)

兼務神社めぐり

其の九

当八幡宮の兼務神社を
順次ご紹介いたします。

豊かな所です。
磯部の地は武蔵府中から続く大山街道が相
模川を渡る渡河点にあたり、要衝の地であり
昔神社の辺りに「磯部城」があったと言われ
ています。
この城は、長尾景春の拠点「小沢城」(愛川
町)の支城として文明九年(一四七七)頃築城
され、翌文明十年頃に太田道灌の軍勢により
攻め落とされたと伝えられています。
神社は下磯部地区のほぼ中央にあり、神社
の創建については明確ではありませんが、延
文元年(一三五六)以前と言われてます。
ご祭神は「天児屋根命・アメノコヤネノミ
コト」という神様をお祀りしています。
この神様は日本神話で、天照大神が天の岩
屋にお隠れになられた時に、天照大神を岩屋
から出してもらうために麗しい声で祝詞を奏し
た神様です。

他に境内社として稲荷神社をお祀りしてい
ます。また境内にはご神木として相模原市の
保存樹木の榎の木の大木があります。
社殿は慶応元年(一八六五)と明治三十年
(一八九七)に再建を行っています。また神楽
殿は平成五年(一九九三年)に改築されまし
た。職率は祭礼の前に氏子の皆様と力を合わ
せて職立てをしてきましたが、高齢化と危険
もあり、令和元年八月に氏子より、安全簡易
に掲げられる幟ポール
の寄贈を受けました。
神社の祭礼は九月一
日です、神事の後夕方
からは地区の方による
奉納余興が賑やかに
行われ八月の最後の休
日には元氣な子供達に
よる子供神輿渡御も行
われます。
(総代長 小島一之)



立春前日である2月3日、亀ヶ池八幡宮では毎
年恒例の節分祭が斎行されました。

節分は、古くは稲作などの農作業に大切な時期
に、鬼や邪気を祓って無事の豊作・幸せを祈って
おりました。今日では、今年一年無事安泰である
ようにとの厄落としの意味がある伝統行事です。

まず御神前で福男福女が厄除けの祈願を受け
られ、竹の棒で丸太を叩き大きな音を出して邪
気を祓う「追儺の儀」によって鬼の邪気を祓い退
散させます。

御神前で厳かな祭典の後、神楽殿に移動し、
舞台上において「福は内!鬼は外!」の掛け声によ
る豆撒き神事が執り行われました。

福を授けようとする参拝者で境内は人集りが出
来、節分祭の賑わいを一層晴れやかなものに彩り
ました。

多くの福物
を御協賛下さ
いました氏子
崇敬者の皆様
に篤く御礼申
上げます。



令和元年大晦日の夜も更ける頃、当八
幡宮前には、令和の御代初めての正月を
迎える氏子崇敬者の皆様が列をなしてそ
の時を待っていました。元旦の午前零
時、新しい年を寿ぐ大太鼓が神職によっ
て打ち鳴らされ、荘厳な音が境内に響き
渡り年が明けたことを告げると、年始挨
拶を交わす皆様の笑顔が弾けました。新
手水舎が竣功してから初めての正月とな
り、皆様も気持ちよく参拝前のお清めを
されておりました。
一年の計は元旦にあり、今年が良い年
であるように、また普段どおりの生活が
できるように、これまでの感謝の気持ち
を伝えるために祈りを捧げる老若男女の
姿が一日を通して見られました。



新手水舎にてお清めされる参拝者の皆様

亀ヶ池八幡宮 根岸浩行禰宜
神職身分二級上に昇進



当八幡宮 根岸浩行禰宜には、この度神職身分
「二級上」に昇進され、3月24日神奈川県神社庁に
て伝達式が行われました。同氏は平成5年に亀ヶ
池八幡宮の禰宜として奉職、その後平成7年村富神社宮司を拝命し、
また昨年10月より、市内十社の宮司を拝命いたしました。また奉職
後様々な役職を歴任し、平成21年に身分二級に昇級、その後も神奈
川県神社庁相模原副支部長、また現在も支部長を務めております。
これら数々の功績を称えられたもので今後も斯界の発展にさらに貢
献されることが期待されます。



お子様の幸せを願う
第6回 稚児行列

参進するお稚児さん達

六月二十八日午前十時より、稚児
行列が行われました。楽を奏する伶
人を先導に宮司や神職に続き、天冠
や烏帽子をつけ古式ゆかしい装束を
身につけた可愛らしいお稚児さん達
が境内を練り歩きました。
当日は生憎の雨となり、境内全域
を行列して参進することがかないま
せんでしたが、神門より茅の輪をく
ぐり回廊へと進み、なれない装束な
がらも一生懸命歩く姿が微笑ましく、
お稚児さんご家族様も列の進行に
合わせ、我が子を写真に納めようと
カメラマン役に徹しておりました。
その後は御神前に進み健康祈願を受
け、お子様ひとりひとり玉串奉奠を
されました。その後お土産をもらっ
てお稚児さんも笑顔になりました。和や
かな雰囲気になりました。良い思い
出となれば幸いです。